

スポーツコーチングの看護技術指導への活用の提案

Application of sport coaching skills into the coaching of fundamental nursing skills

中村昌子¹⁾, 土屋純²⁾

Masako Nakamura¹⁾, Jun Tsuchiya²⁾

¹⁾東都医療大学

²⁾早稲田大学スポーツ科学学術院

¹⁾ Tohto College of Health Sciences

²⁾ Faculty of Sport Sciences, Waseda University

キーワード: スポーツコーチング, 運動技術, 看護技術, 基礎看護学

Key words: Sport Coaching, Technique, Nursing Skills, Fundamental Nursing

抄 録

看護基礎教育では、看護に必要な知識・技術・態度を養成する。このうち、患者に対する具体的な援助を「看護技術」と称している。看護基礎教育における看護技術項目は143項目あり、そのうち、卒業時に「単独で実施できる」はずのものは34項目、「看護師・教員の指導のもとで実施できる」はずのものは53項目である。しかし、卒業後の調査によると、実際には新卒看護師の7割以上が入職時に「単独で実施できる」のは4項目のみである。看護技術の授業では、まず、基礎科目や専門基礎科目で学んだ知識を想起させ、それらに関連付けて理解することが必要であり、既習の知識を統合して看護技術の構造や根拠を理解し、知識を使って援助内容を判断・実施できるような組み立てが必要である。そのため、教育内容の改正にあっては、学生が臨床実践能力を習得できるよう、演習を強化する必要性があげられているが、効果的な指導方法についてはまだ開発段階にある。看護技術の習得は学生にとっては、「新しい動作の学習」である。新しい動作の学習については、スポーツ分野で多く研究されている。看護技術を習得するプロセスは、新しい運動を獲得し、洗練させ、定着させ、さらに適用していく運動系の学習と同様である。本稿は、スポーツ分野の研究成果や文献に基づく、スポーツコーチングの技術指導方法を応用して看護技術を教える可能性について検討した。看護技術を指導する場面では、「新しい動作の学習」という観点はこれまで持たれていない。看護技術の習得はスポーツ分野の運動の習得とは異なり、所定のカリキュラム内で必ず身に付けなければならない必要性和時間的制約がある。看護技能の質を維持するためにも、一定の学習成果が求められるため、具体的・直接的な表現による詳細で的確な指示が重要である。スポーツの現場で広く用いられている映像を用いた視覚的な指導、アナログを活用し類似した運動感覚を生かす指導や学習者がすでに有している知識を活用した言語による指導(メタファー)は、看護技術を指導する場面ではまだ一般的には行われていない。しかし、動作がよりイメージしやすくなり、新しい動作を身近に感じて練習できることから、看護技術の習得においてもスポーツコーチング分野と同様の効果が期待できると推察される。

スポーツ科学研究, 10, 209-222, 2013年, 受付日: 2013年1月8日, 受理日: 2013年10月9日

連絡先: 中村昌子 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

早稲田大学スポーツ科学研究科 土屋研究室 e-mail: masako-nakamura@ruri.waseda.jp